「広報しながわ」平成２０（２００８）年４月１日号より転載
（イラスト：池原昭治）

# 品川昔ばなし

北品川

## 御殿山の桜

**北品川四・五丁目には、昔、小高い丘がありました。江戸時代に桜で有名になり、春になると多くの花見客がやってきたところです。ここには「品川御殿」があったことから、「御殿山」という名前がついたともいわれています。御殿山は幕末に品川台場の土とり場としてくずされ、また、明治時代には鉄道の開通で切り通しとなったことから昔のようなおもかげはありませんが、御殿山通りの桜並木に、当時の雰囲気を感じとることができます。**

この地でいまのように人々が気軽に楽しめるものとしてお花見が広まったのは、享保年間（1716～1735年）、徳川吉宗が八代将軍のころです。

「桜がうつくしい吉野（奈良県）のように、江戸にもっと桜をうえるのじゃ」「上様、それはよいお考えでございます。江戸にもきっと、うつくしい桜の園ができることでしょう」「桜の下での宴が、いまから楽しみだのう」

吉宗は「みんなを楽しい気分にさせるお花見は、とてもよいことじゃ」といって、いままであった桜に加え、さらに多くの桜をうえ、庶民でも花見を自由に楽しめるようにしました。また、秋に紅葉するハゼの木もうえられ、桜とともに紅葉までもがうつくしい御殿山として知れわたるようになりました。

桜の季節になると、品川はもちろん、はなれたところに住む人々も御殿山のきれいな桜を見ようとやってきます。よさそうな場所が見つかると、腰をおろしてひと息つき、御殿山のけしきをながめました。「浜辺の方まで見渡せる……すばらしいなぁ」「品川沖にうかぶ舟の白い帆がなんともいえないねぇ。未申（南西）の方角に見えるのは、富士山だね」。桜だけではなく、周りの風景もうつくしいとあちこちで評判になり、たくさんの人々が集まって、この御殿山は江戸の名所となりました。

**【品川御殿】**
**江戸時代に将軍がたか狩りに出たときの休息や、茶会などの将軍家の行事に利用されていましたが、元禄十五年（1702）の火事で焼失し、再建されることはありませんでした。**